

人口ビジョン（時点修正のみ行う予定）

＜対象期間＞

2015年度～2060年度

＜将来展望＞

2060年の人口を、
推計値比+8,400人の約6万人に
・出生率を、2012年 1.68から
2025年 1.8 → 2035年 2.07
→ 2040年 2.10に引き上げる。
・若者の社会増減を推計値より30人/年
改善する。

鯖江市総合戦略（今年度第2期版を策定）

＜対象期間＞

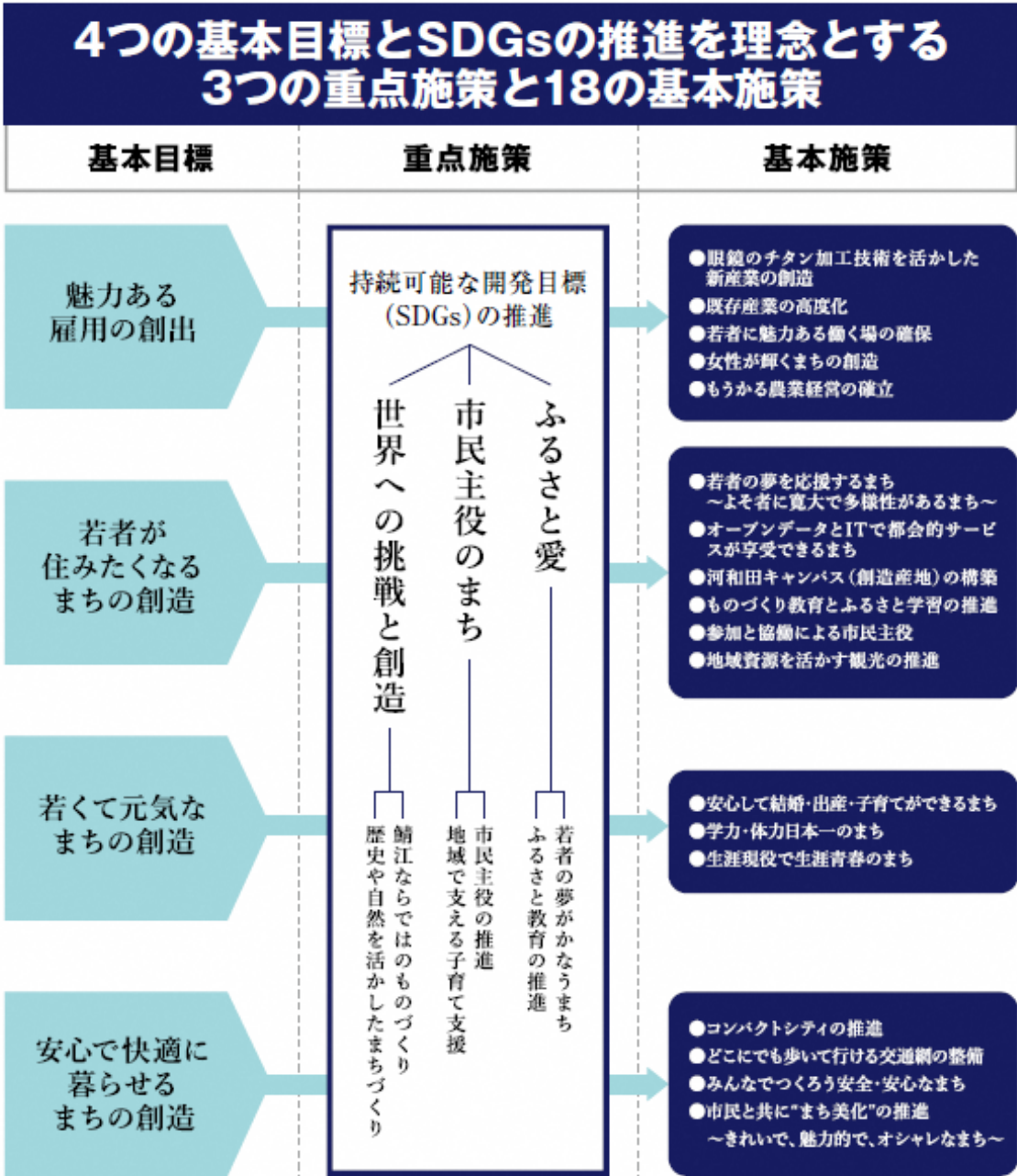
平成27年度～令和元年度
（5年間）

＜推進・検証体制＞

「鯖江市総合戦略推進会議」で実施状況を
検証。必要に応じて、充実・見直し

＜数値目標＞

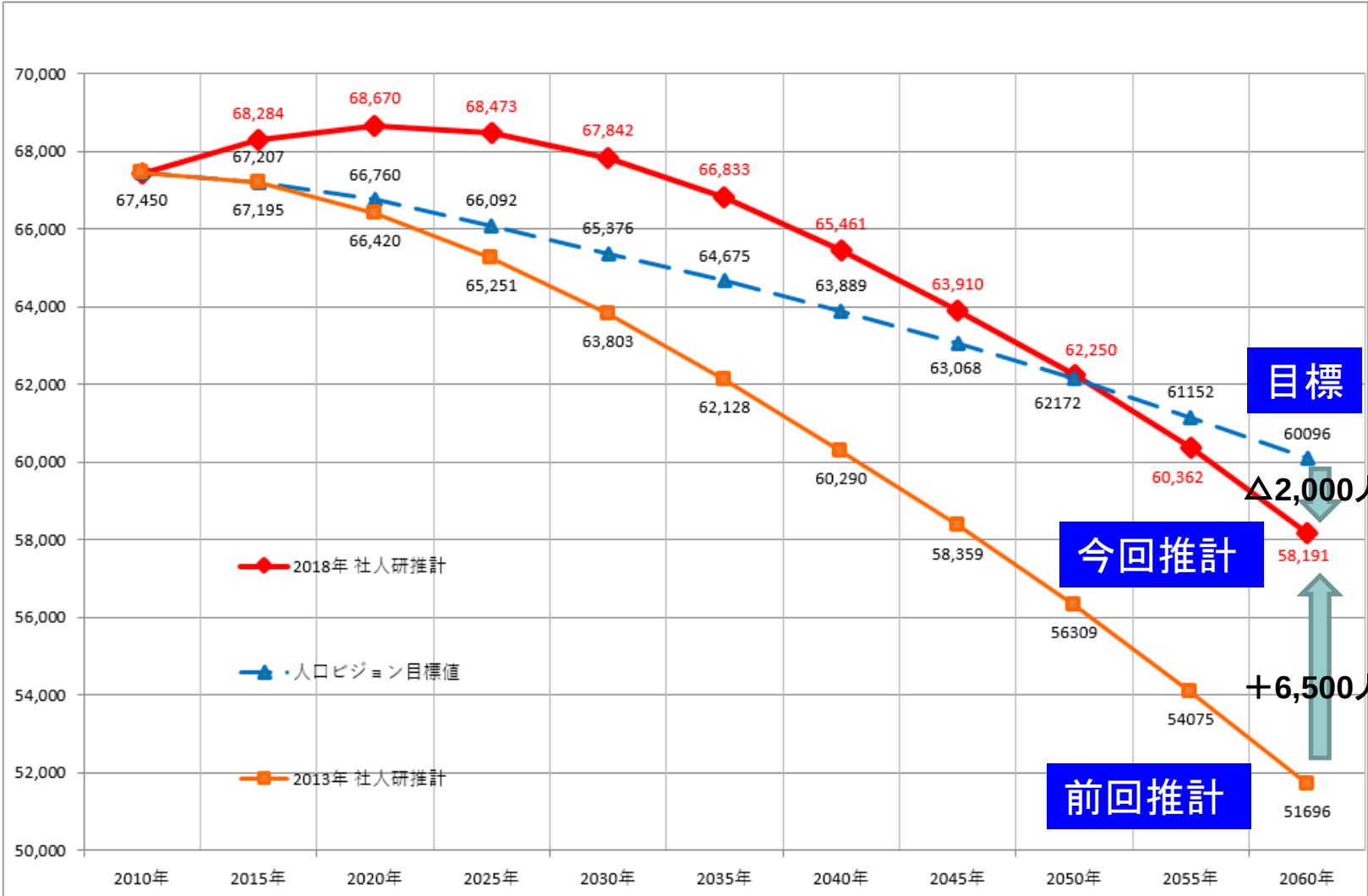
77のKPI（成果指標）



将来人口推計①

○ 社人研の2018年推計では、2021年頃の約68,700人がピーク。
5年前の推計から向上したが、2060年の目標60,000人を約2,000人下回る。

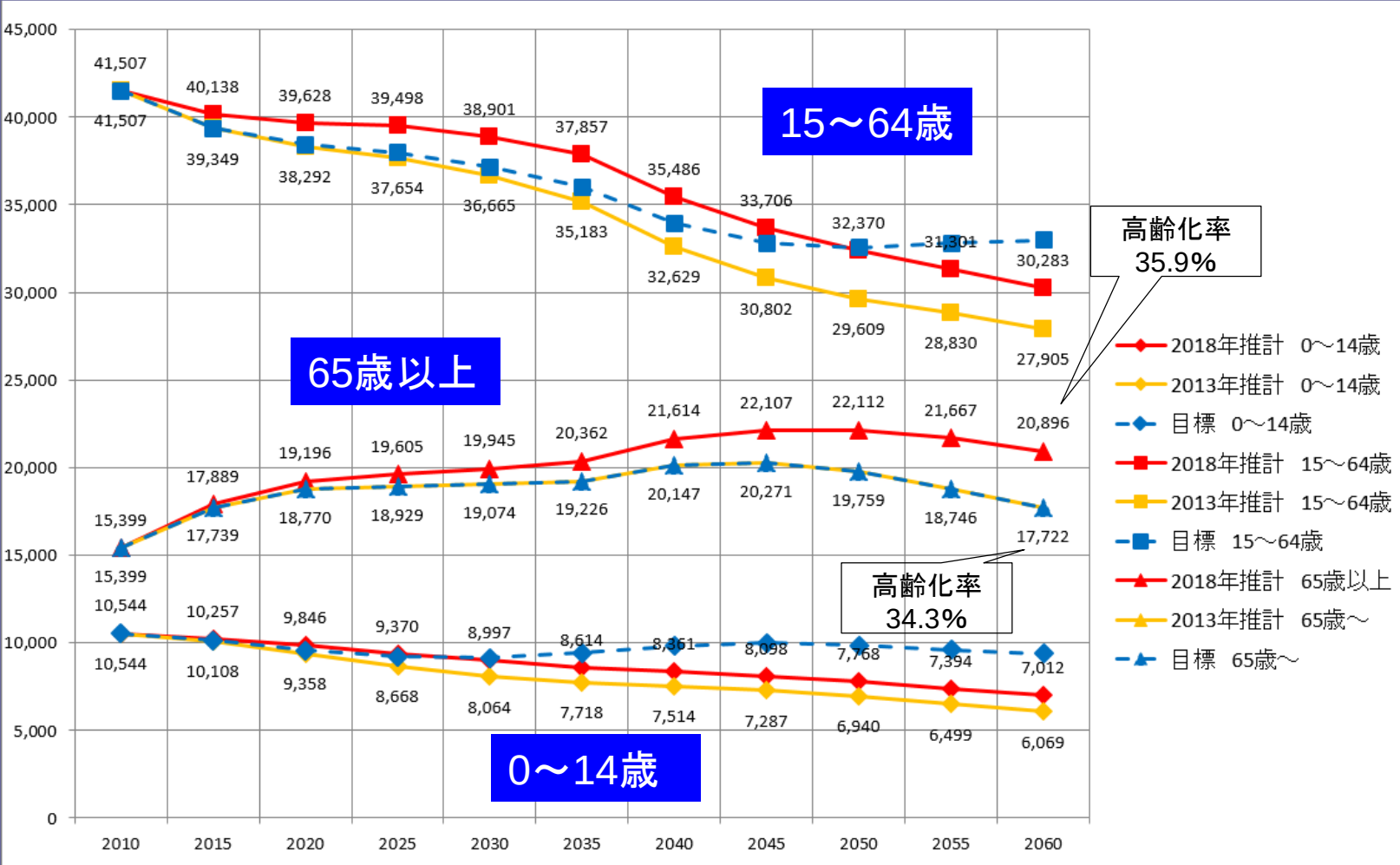
鯖江市の将来人口推計



将来人口推計②

- 0～14歳人口は、5年前推計から向上したが、2030年以降目標値を下回る。
- 15～64歳人口は、5年前推計から向上したが、2050年以降目標値を下回る。
- 65歳以上人口は、5年前推計より増加し、結果、2060年の高齢化率は、1.6%上昇し、35.9%となる。

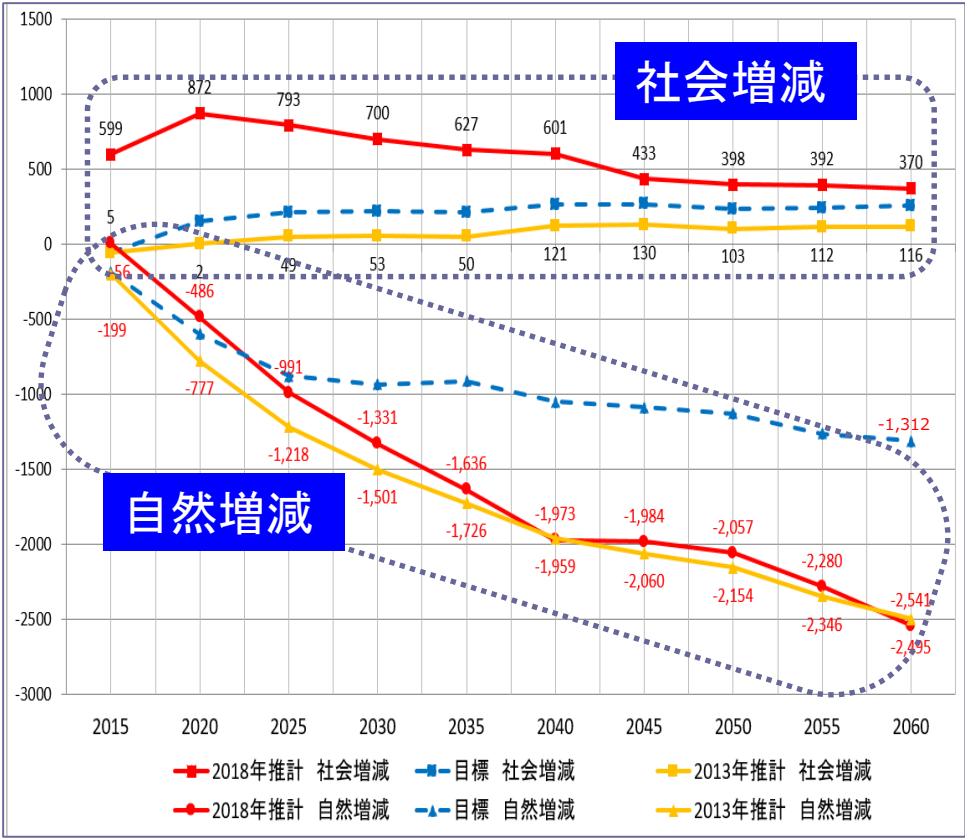
年齢3区分人口



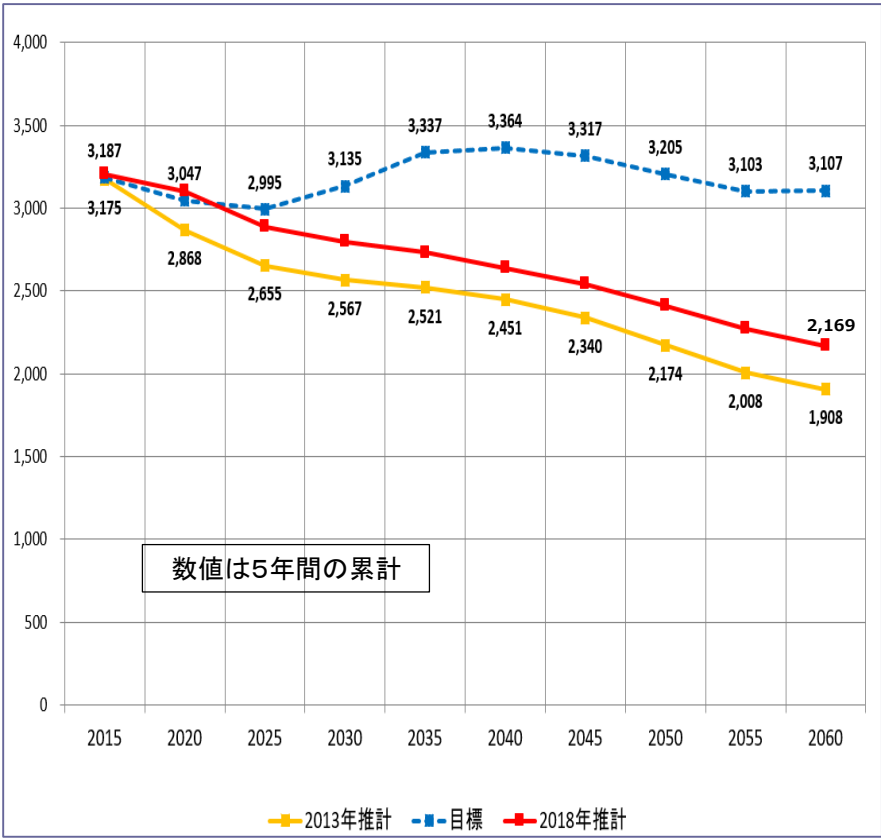
将来人口推計③

- 社会増減は、5年前推計から向上し、目標値を上回る見込み。
- 自然増減は、5年前推計から若干向上したが、目標値を大きく下回る。
- 出生率を目標（2025年 1.8 2035年 2.07 2040年 2.1）にいかにつづけるかが課題。

社会増減と自然増減



出生数

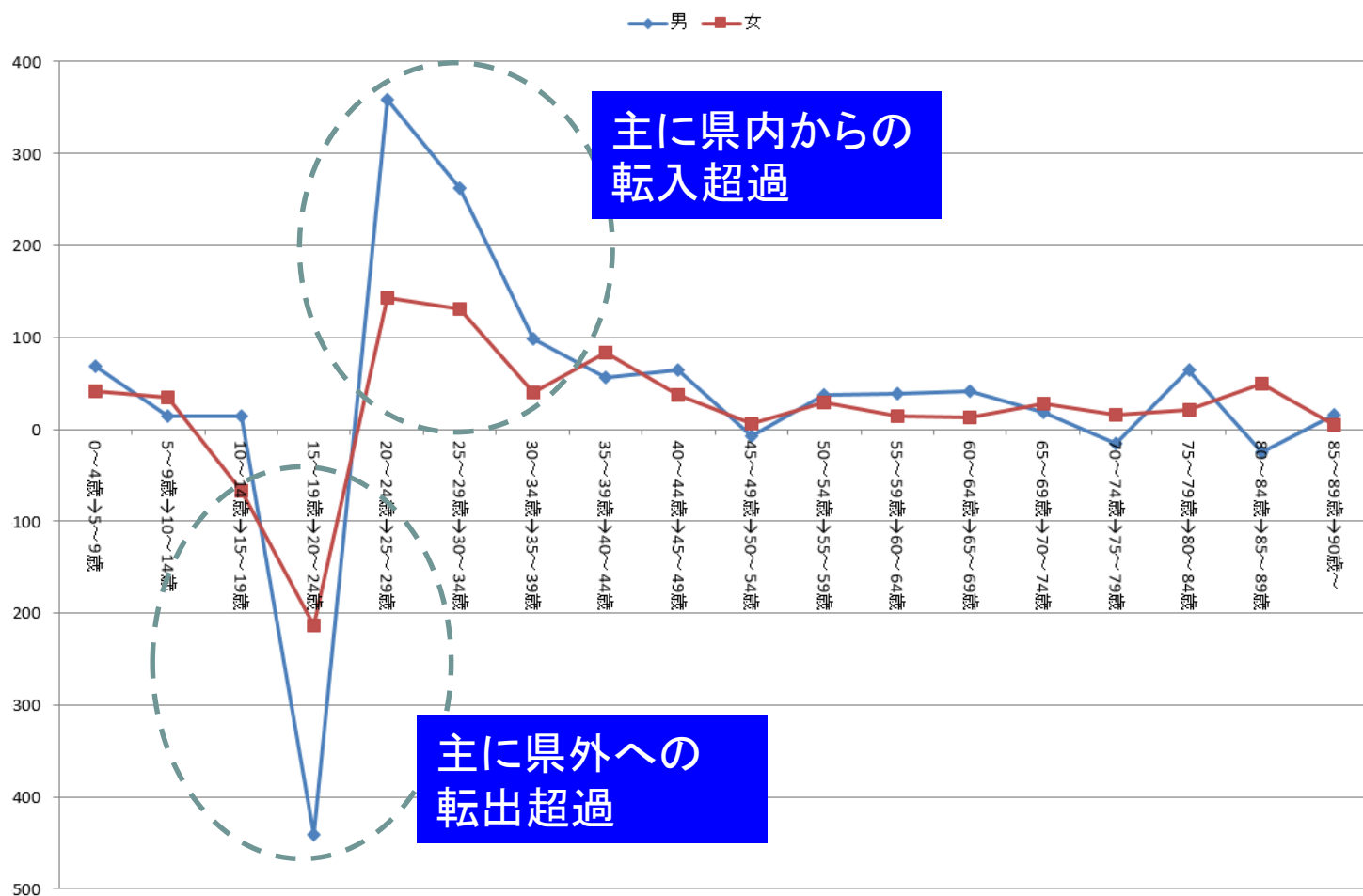


将来人口推計④

- 推計では、今後も社会増は目標値を超えて続くとされているが、県内からの転入超過に支えられている構造であり、更なる増加が見込みにくい。
- 県外に対する転出超過の抑制が課題。母親世代（15～49歳）人口が減少すると、出生率が向上しても出生数の増につながらない。

年齢階層別人口移動分析（2010年→2015年）

男：+662人 女：+412人

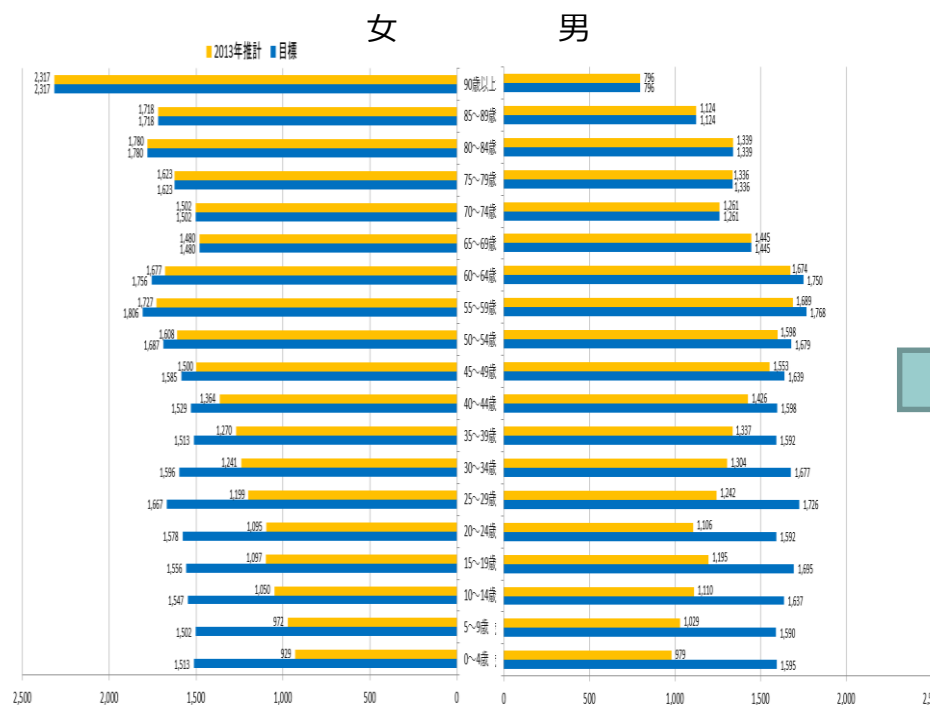


将来人口推計⑤

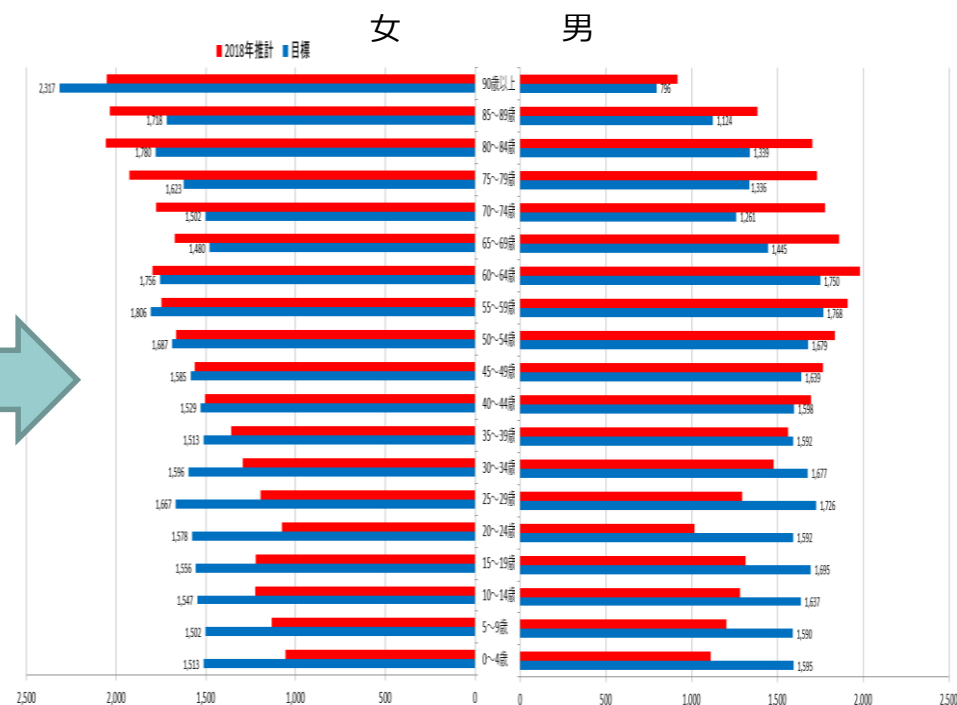
- 5年前の推計同様、逆三角形になる見込み。
- 2060年には、高齢者一人を1.4人の現役世代（15～64歳）で支えることとなる。
※2015年現在では2.2人 2013年推計では1.5人（2060年） 目標では1.8人

2060年 人口ピラミッド

2013年推計・目標



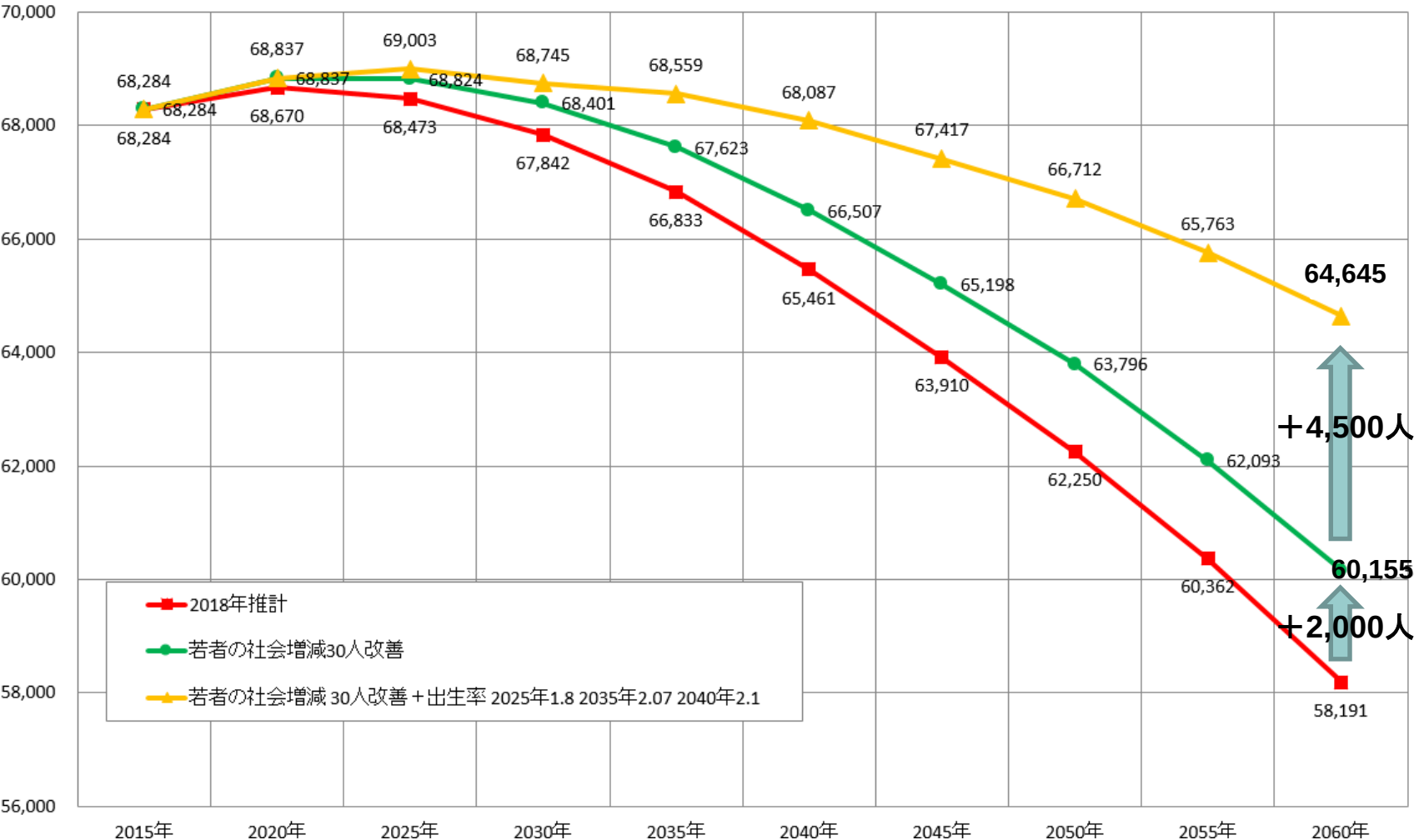
2018年推計



将来人口推計⑤

- 2018年推計をベースに、出生率（2025年 1.8 2035年 2.07 2040年 2.1）
+ 若者の社会増減30人改善 で推計すると 64,645人（2060年）
- 若者の社会増減30人改善のみでは 60,155人（2060年）

2018年推計に基づく将来人口シミュレーション



K P I の進捗状況（H30年度末時点）①

◆ K P I 全 7 7 項目中

目標に向かって改善している	4 7
改善しているがスピードが遅い	1 2
後退している	1 5
次回国勢調査で把握	3

【基本目標別】

魅力ある雇用の創出

9 / 1 3

2 / 1 3

- ・新規就農者数
- ・持続性のある農業が確立されていると感じている人の割合

2 / 1 3

若者が住みたくなるまちの創造

1 2 / 1 9

2 / 1 9

- ・クラウドファンディングを活用した若者活動支援数
- ・河和田地区での新規起業数

5 / 1 9

- ・若者の社会減の抑制【人口減に直結】
- ・タブレットアプリ年間講座受講者数
- ・将来、市内の地場産業に関する事業所で働きたい生徒（中学 1 年生）の割合
- ・将来、市内の企業で働きたい生徒（中学 1 年生）の割合
- ・参加と協働によるまちづくりが推進されていると感じている人の割合

K P I の進捗状況（H30年度末時点）②

若くて元気なまちの創造

5/13

3/13

- ・放課後児童クラブ数（公立）
- ・子育てサポーター登録者数
- ・地域見守り体制の整備率

4/13

- ・ **出生数【人口減に直結】**
- ・子育て支援に満足している人の割合
- ・子育てサポーターの活動率
- ・公民館の年間利用者数

1/13

安心して快適に暮らせるまちの創造

13/22

4/22

- ・中心市街地周辺の人口
- ・自主防災活動実施率
- ・河川施設の整備率
- ・ごみの1人1日当たりの排出量

5/22

- ・道の駅「西山公園」の年間来場者数
- ・つつじバス年間利用者数
- ・福武線市内駅年間利用者数
- ・公共交通機関が充実していると感じている人の割合
- ・資源化率

組織強化

8/10

1/10

- ・能力態度評価評点数（人事評価制度）

1/10

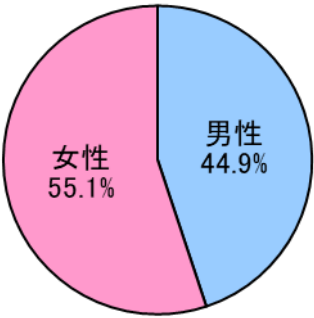
- ・国際交流員および通訳者等派遣人数

市民アンケート結果①

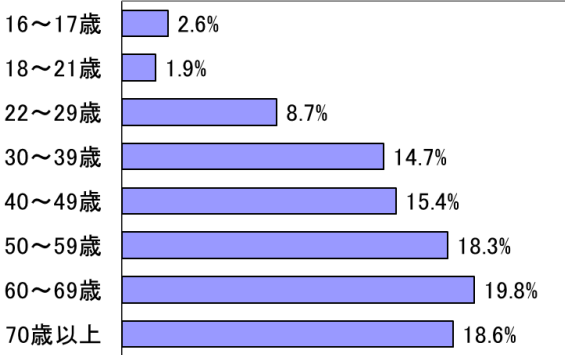
◆ アンケート実施概要

- ・ 16歳以上の鯖江市在住の方（平成31年4月1日現在）
- ・ 1,000人を無作為抽出
- ・ 回答数 469（発送数：1,000）

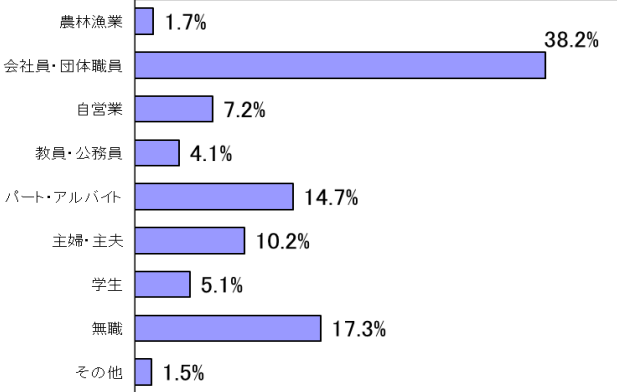
【性別】



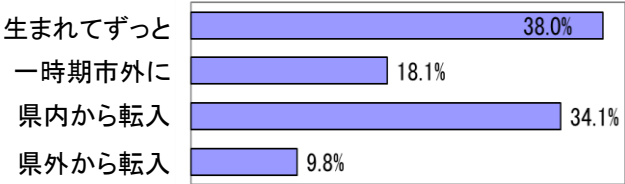
【年齢】



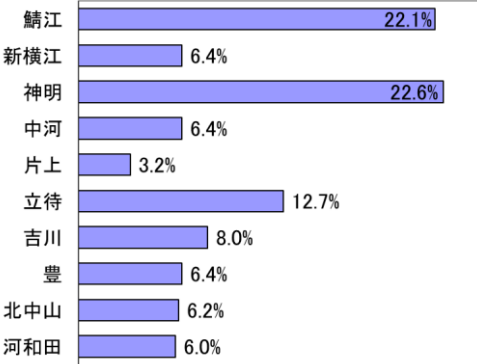
【職業】



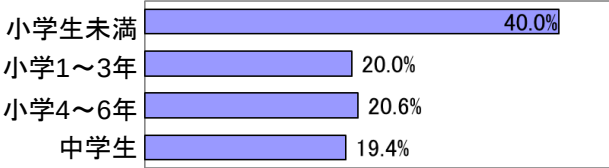
【いつから住んでいるか】



【住所】



【回答者の子ども165人の構成】



全回答469人

◆ 満足度の高い施策

満足している + ほぼ満足している の割合

- 1 眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造 45.3%
- 2 歴史や自然を活かしたまちづくり 44.3%
- 3 学力・体力日本一のまち 44.1%
- 4 地域資源を活かす観光の推進 43.3%
- 5 河和田キャンパス(創造産地)の構築 38.1%

◆ 満足度の低い施策

満足していない + ほぼ満足していない の割合

- 1 どこにでも歩いて行ける交通網の整備 41.3%
- 2 女性が輝くまちの創造 32.7%
- 3 若者が活躍し、定住しやすい環境の充実 30.9%
- 4 若者に魅力ある働く場の確保 27.8%
- 5 働きやすい環境を充実する 26.6%

◆ SDGs の認知度

意味も知っている 10.3% 言葉は知っている 22.3%

◆ 交通利便性確保に必要なもの 上位3つ

- 1 並行在来線に快速や新快速を 281人
- 2 南越駅への公共交通網の整備 144人
- 3 主要都市をつなぐ高速バスターミナル整備 127人

市民アンケート結果③

男 203人

◆ 満足度の高い施策

満足している + ほぼ満足している の割合

- 1 眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造 45.1%
- 2 歴史や自然を活かしたまちづくり 44.9%
- 3 学力・体力日本一のまち 43.0%
- 4 災害に強い河川等を整備する 41.0%
- 5 地域資源を活かす観光の推進 39.7%

◆ 満足度の低い施策

満足していない + ほぼ満足していない の割合

- 1 どこにでも歩いて行ける交通網の整備 41.6%
- 2 円滑で安全な道路網を整備する 33.3%
- 3 若者の夢がかなうまち 31.3%
- 4 もうかる農業経営の確立 31.1%
- 5 若者が活躍し、定住しやすい環境の充実 31.0%

◆ SDGs の認知度

意味も知っている 10.8% 言葉は知っている 26.2%

◆ 交通利便性確保に必要なもの 上位3つ

- 1 並行在来線に快速や新快速を 119人
- 2 南越駅への公共交通網の整備 67人
- 3 主要都市をつなぐ高速バスターミナル整備 55人

女 261人

◆ 満足度の高い施策

満足している + ほぼ満足している の割合

- 1 地域資源を活かす観光の推進 47.2%
- 2 眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造 45.9%
- 3 学力・体力日本一のまち 45.0%
- 4 歴史や自然を活かしたまちづくり 41.1%
- 5 参加と協働による市民役 42.6%

◆ 満足度の低い施策

満足していない + ほぼ満足していない の割合

- 1 どこにでも歩いて行ける交通網の整備 40.2%
- 2 女性が輝くまちの創造 34.2%
- 3 若者が活躍し、定住しやすい環境の充実 29.9%
- 4 若者に魅力ある働く場の確保 25.1%
- 5 働きやすい環境を充実する 24.4%

◆ SDGs の認知度

意味も知っている 10.1% 言葉は知っている 19.8%

◆ 交通利便性確保に必要なもの 上位3つ

- 1 並行在来線に快速や新快速を 159人
- 2 南越駅への公共交通網の整備 77人
- 3 主要都市をつなぐ高速バスターミナル整備 71人

市民アンケート結果④

16～21歳 21人

◆ 満足度の高い施策

満足している + ほぼ満足している の割合

- 1 安全なおいしい水を安定供給する 73.3%
- 2 学力・体力日本一のまち 62.5%
- 3 若者が活躍し、定住しやすい環境の充実 61.5%
- 4 交通安全を推進する 60.0%
- 5 眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造 58.3%

◆ 満足度の低い施策

満足していない + ほぼ満足していない の割合

- 1 どこにでも歩いて行ける交通網の整備 47.1%
- 2 女性が輝くまちの創造 35.7%
- 3 若者の夢を応援するまち 35.3%
- 4 もうかる農業経営の確立 30.0%
- 5 地域の防災力を強化する 29.4%

◆ SDGs の認知度

意味も知っている 4.8% 言葉は知っている 23.8%

◆ 交通利便性確保に必要なもの 上位3つ

- 1 並行在来線に快速や新快速を 12人
- 2 南越駅への公共交通網の整備 8人
- 3 つつじバスの利便性向上 5人

22～29歳 41人

◆ 満足度の高い施策

満足している + ほぼ満足している の割合

- 1 参加と協働による市民役 48.4%
- 2 地域の防災力を強化する 44.8%
- 3 地域資源を活かす観光の推進 44.1%
- 4 交通安全を推進する 42.4%
- 5 若者が住みたくなる・住み続けたいまちづくり

◆ 満足度の低い施策

42.3%

満足していない + ほぼ満足していない の割合

- 1 どこにでも歩いて行ける交通網の整備 47.1%
- 2 若者に魅力ある働く場の確保 40.7%
- 3 若者が活躍し、定住しやすい環境の充実 31.4%
- 4 若者の夢がかなうまち 31.3%
- 5 女性が輝くまちの創造 29.6%

◆ SDGs の認知度

意味も知っている 14.6% 言葉は知っている 22.0%

◆ 交通利便性確保に必要なもの 上位3つ

- 1 並行在来線に快速や新快速を 26人
- 2 南越駅への公共交通網の整備 17人
- 3 主要都市をつなぐ高速バスターミナル整備 12人

市民アンケート結果⑤

30～59歳 227人

◆ 満足度の高い施策

満足している + ほぼ満足している の割合

- 1 学力・体力日本一のまち 42.8%
- 2 地域資源を活かす観光の推進 42.6%
- 3 歴史や自然を活かしたまちづくり 38.8%
- 4 眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造 38.6%
- 5 参加と協働による市民役 36.1%

◆ 満足度の低い施策

満足していない + ほぼ満足していない の割合

- 1 どこにでも歩いて行ける交通網の整備 42.0%
- 2 女性が輝くまちの創造 38.9%
- 3 若者が活躍し、定住しやすい環境の充実 34.1%
- 4 若者に魅力ある働く場の確保 31.5%
- 5 安心して結婚・出産・子育てができるまち 29.0%

◆ SDGsの認知度

意味も知っている 10.6% 言葉は知っている 20.4%

◆ 交通利便性確保に必要なもの 上位3つ

- 1 並行在来線に快速や新快速を 139人
- 2 南越駅への公共交通網の整備 71人
- 3 主要都市をつなぐ高速バスターミナル整備 60人

60歳以上 180人

◆ 満足度の高い施策

満足している + ほぼ満足している の割合

- 1 眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造 55.5%
- 2 歴史や自然を活かしたまちづくり 53.6%
- 3 河和田キャンパス(創造産地)の構築 45.8%
- 4 学力・体力日本一のまち 44.4%
- 5 地域資源を活かす観光の推進 43.3%

◆ 満足度の低い施策

満足していない + ほぼ満足していない の割合

- 1 どこにでも歩いて行ける交通網の整備 38.6%
- 2 もうかる農業経営の確立 28.1%
- 3 若者が活躍し、定住しやすい環境の充実 27.0%
- 4 働きやすい環境を充実する 26.9%
- 5 適正な都市計画・土地利用を推進する 26.3%

◆ SDGsの認知度

意味も知っている 9.5% 言葉は知っている 24.9%

◆ 交通利便性確保に必要なもの 上位3つ

- 1 並行在来線に快速や新快速を 104人
- 2 主要都市をつなぐ高速バスターミナル整備 51人
- 3 南越駅への公共交通網の整備、つつじバスの利便性向上 各48人

第2期総合戦略の策定に向けて

<課題>

- ◇出生数
 - ・出生率を目標（2025年 1.8 2035年 2.07 2040年 2.1）にいかに近づけるかが課題
- ◇社会増減
 - ・県内からの転入超過に支えられている構造であり、更なる社会増が見込みにくい。
→ 県外に対する転出超過の抑制が課題。
- ◇高齢化
 - ・2060年の高齢化率は、前回推計より1.6%上昇し、35.9%となる。
→ 高齢者一人を1.4人の現役世代（15～64歳）で支える
- ◇K P I の進捗
 - ・人口減少に直結する「若者の社会減の抑制」、「出生数」が後退している
- ◇アンケート結果
 - ・若者に魅力ある働く場の確保の満足度が低い（22～29歳、30～59歳）
 - ・若者が活躍し、定住しやすい環境の充実の満足度が低い（22～29歳、30～59歳、65歳～）⇔16～19歳では逆に高い
 - ・交通網の整備への満足度が低い（全世代）
 - ・女性が輝くまちの創造への満足度が低い（16～19歳、22～29歳、30～59歳）
 - ・16～21歳のSDGsの意味も知っているの割合がやや低い
 - ・交通利便性確保に必要なものとして、全世代で「並行在来線に快速や新快速を」が最も多く、「南越駅への公共交通網の整備」、「主要都市をつなぐ高速バスターミナル整備」、「つつじバスの利便性向上」が次いで多い。

<対応>

- ◆人口ビジョンに掲げる、「出生率の向上」と「若者の社会増減の改善」の目標は継続し、達成を目指した総合戦略を策定する。
- ◆総合戦略では、国同様、現在の4つの基本目標「魅力ある雇用の創出」、「若者が住みたくなるまちの創造」、「若くて元気なまちの創造」、「安心で快適に暮らせるまちの創造」は継続するとともに、特に以下について充実・強化を検討する。
 - 更なる社会増に向けて、県外に対する転出超過を抑制することが重要であり、「若者に魅力ある働く場の確保」、「若者の活躍の場づくり・定住の促進・働きやすい環境づくり」を一層図っていく必要がある。
 - 高齢化が一層進むことから、交通網の整備を進め、移動手段を確保する必要がある。
 - 女性が活躍しやすい土壌があるとされる一方で、「女性が仕事と子育てを両立できるような環境づくり」、「家庭や地域生活等の私生活を充実できるよう多様な働き方の推進」などの満足度が低く、更なる取組を要する。
 - 国や県の戦略との整合を図る必要があることから、以下について市においても検討を要する。
 - <県の長期ビジョン策定に向けた検討観点（案）>
 - ・自然風土や歴史性、地域社会のつながり、農林水産業、産業力などの「福井らしさ」を守り、価値を高める
 - ・年齢や性別、障がいの有無等に関わらない「全員参加型」の共生社会を実現
 - ・交通体系の進展やAI・IoTなど新たな技術を産業や地域の課題解決・高度化に活用し、暮らしの質を向上
 - <国の第2期戦略に新たに盛り込む視点>
 - 「関係人口の創出・拡大」、「寄附・投資等による地方への資金の流れ」、「Society5.0の実現」、「SDGs」、「人材の掘り起こし、育成、活動支援」、「民間との協働」、「女性、高齢者、障がい者など誰もが活躍できる社会」、「地域経営の視点」